

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2023年 6月 27日	
富山県知事	
新田 八朗 殿	
提出者	
住 所 富山県黒部市天神新8番地	
氏 名 東邦チタニウム株式会社 黒部工場	
工場長 尾崎 雅志	
電話番号 0765（54）9381	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	東邦チタニウム株式会社 黒部工場
事業場の所在地	富山県黒部市天神新8番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	化学工業
② 事業の規模	別紙 産業廃棄物処理計画 1. 事業概要参照。
③ 従業員数	39名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1 工程図参照。

（日本産業規格 A列4番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙 産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	排出量	1218 t	6.18 t
	(これまでに実施した取組) 汚泥中の不純物を除去した後、焼成することで有価物にするテストを数回実施。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	排出量	1200 t	10 t
	(今後実施する予定の取組) 有価物のサンプルを複数の会社に評価依頼しており、2023年度内に有価物として販売する仕組みを構築する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	全処理委託量	1218 t	10 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1193 t	10 t
	再生利用業者への 処理委託量	1218 t	10 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 (プレスケーキ)	汚泥 (乾燥汚泥)
	全処理委託量	1200 t	10 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1170 t	10 t
	再生利用業者への 処理委託量	1200 t	10 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

請
じ
ま
と。

- (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

中
間

- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

量
行
収
あ
へ

- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

と
の
入

- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。

- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙 産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	排出量	79	t	17 t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	排出量	70	t	15 t
	(今後実施する予定の取組)			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	全処理委託量	79 t	17 t
	優良認定処理業者への処理委託量	79 t	17 t
	再生利用業者への処理委託量	79 t	17 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類_		汚泥 無機スラリー	汚泥 有機スラリー
	全 処 理 委 託 量_		70 t	15 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量		70 t	15 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量		70 t	15 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量		— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量		— t	— t
	(今後実施する予定の取組)			
※事務処理欄				

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙 産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	排出量	31 t	0.5 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	排出量	30 t	0.5 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	廃油	廃油（エマルジョン）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組）		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	全処理委託量	31 t	0.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	31 t	0.5 t
	再生利用業者への 処理委託量	31 t	0.5 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃油 (エマルジョン)
	全処理委託量	30 t	0.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	30 t	0.5 t
	再生利用業者への 処理委託量	30 t	0.5 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙 産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	排出量	7 t	2 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	排出量	7 t	2 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	全処理委託量	7 t	2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	7 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	7 t	2 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃プラ（ウエス）
	全処理委託量	7 t	2 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	7 t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	7 t	2 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙 産業廃棄物処理計画参照。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	排出量	2 t	1 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	排出量	2 t	1 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	全処理委託量	2 t	1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2 t	1 t
	再生利用業者への処理委託量	2 t	1 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
	全処理委託量	2 t	1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2 t	1 t
	再生利用業者への処理委託量	2 t	1 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物処理計画

東邦チタニウム株式会社
黒部工場

— 目 次 —

1. 事業概要	1
2. 計画期間	
3. 管理方針	2
4. 廃棄物処理対策	3
5. 関連推進事項	3

1. 事業概要

(1) 資本金及び従業員数

- ・資本金： 11,963 百万円 (連結 2022 年 3 月期)
- ・従業員数： 981 名 (連結 2022 年 3 月期) (黒部工場：39 名)

(2) 生産量及び出荷額

表 1 令和 4 年度実績

	生産量	売上高
触媒生産量	黒部工場 133.5t	5829 百万円

(3) 製造概要

当黒部工場では、汎用樹脂であるポリプロピレン製造用の触媒を製造している。

(4) 製造フロー及び廃棄物発生フロー

別紙 1 に製造フロー及び廃棄物発生フローを示す。

(5) 工場配置図

別紙 2 に工場配置図を示す。

(6) 事業展望

触媒事業では、プラスチックの一種である「ポリプロピレン」(PP)の製造用触媒の製造・販売を行っています。

主力製品である「THC触媒」は、優れた重合活性、様々なPP製造プロセスへの適用を可能にする豊富な製品グレードなど、際立った特長を有しており、世界最高水準の性能と品質を誇っています。

当社の製品は、国内外を問わず、数多くのPP製造メーカーに販売され、その性能の高さはユーザーから絶大な信頼を得ています。

(7) 生産設備の状況

顧客需要に対応するため平成19年4月より生産ラインを1系列追加し、能力を1.5倍とした。平成10年より稼動している生産ラインは適宜補修を行ない、順調に稼動を続けている。

(8) 連絡先

〒939-0042

富山県黒部市天神新8番地

東邦チタニウム株式会社 黒部工場 担当：【環境・安全担当】中瀬

電 話：0765-54-9381

FAX：0765-54-9382

2. 計画期間

計画期間は、令和5年度とした。

3. 管理方針

(1) 廃棄物処理

① 法令の遵守等

産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他の規則を遵守するとともに、行政の環境施策に協力する。

② 排出事業者の処理責任

産業廃棄物の処理責任が自らにあることを十分に認識するとともに、廃棄物処理法や循環型社会形成推進基本法等の関係法令に関する趣旨を従業員に対しても周知することにより、産業廃棄物に関する主体的取り組みを促進する。

また、産業廃棄物の処理を処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から最終処分に至るまでマニフェストにより確認し、適正に管理する。

③ 目標の設定

発生量の抑制、減量化、循環利用の推進、最終処分量の削減について、数値目標及びその達成期間を定め実施する。また、これら処理に関する目標及び計画は、定期的に必要を見直しを行う。

④ 廃棄物処理の取り組み

廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施し、また、協力会社にも必要な指導を行う。

ア：発生抑制

- ・工程内リサイクル率を向上する。
- ・発生抑制を考慮した製造方法を検討する。
- ・製造工程の変更により、再資源化できない原料や、処理が困難な薬品の使用を控える。

イ：その他

- ・処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。
- ・汚泥の再資源化に関する技術的検討を推進する。

⑤ 教育・研修等

発生する廃棄物の種類、発生状況、処理方法、処理に関する留意事項を整理し、従業員等に定期的に教育、研修等を行う。

⑥ 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生や処理状況について情報の公開に努める。

(2)環境全般

- ① 原料、エネルギー、労働力、生産設備等の生産に係わる全ての資源・技術を最も合理的かつ効率的に活用することにより、環境負荷の最小化に努める。
- ② 地球や地球環境の健全化のため、常に努力し、地球社会との共存共栄を目指す。

4. 廃棄物処理対策

(1)廃棄物処理の現状

排水中の固形分を脱水し、脱水汚泥（酸化チタン）として搬出している。

(2)廃棄物処理の計画

汚泥

処分（処理業者施設）を継続。

5. 関連推進事項

(1)環境管理・監査システムの導入

平成16年度4月、ISO-14001認証登録。登録継続中

(2)自主管理基準の設定

(3)情報の公開

(4)ゼロエミッション化

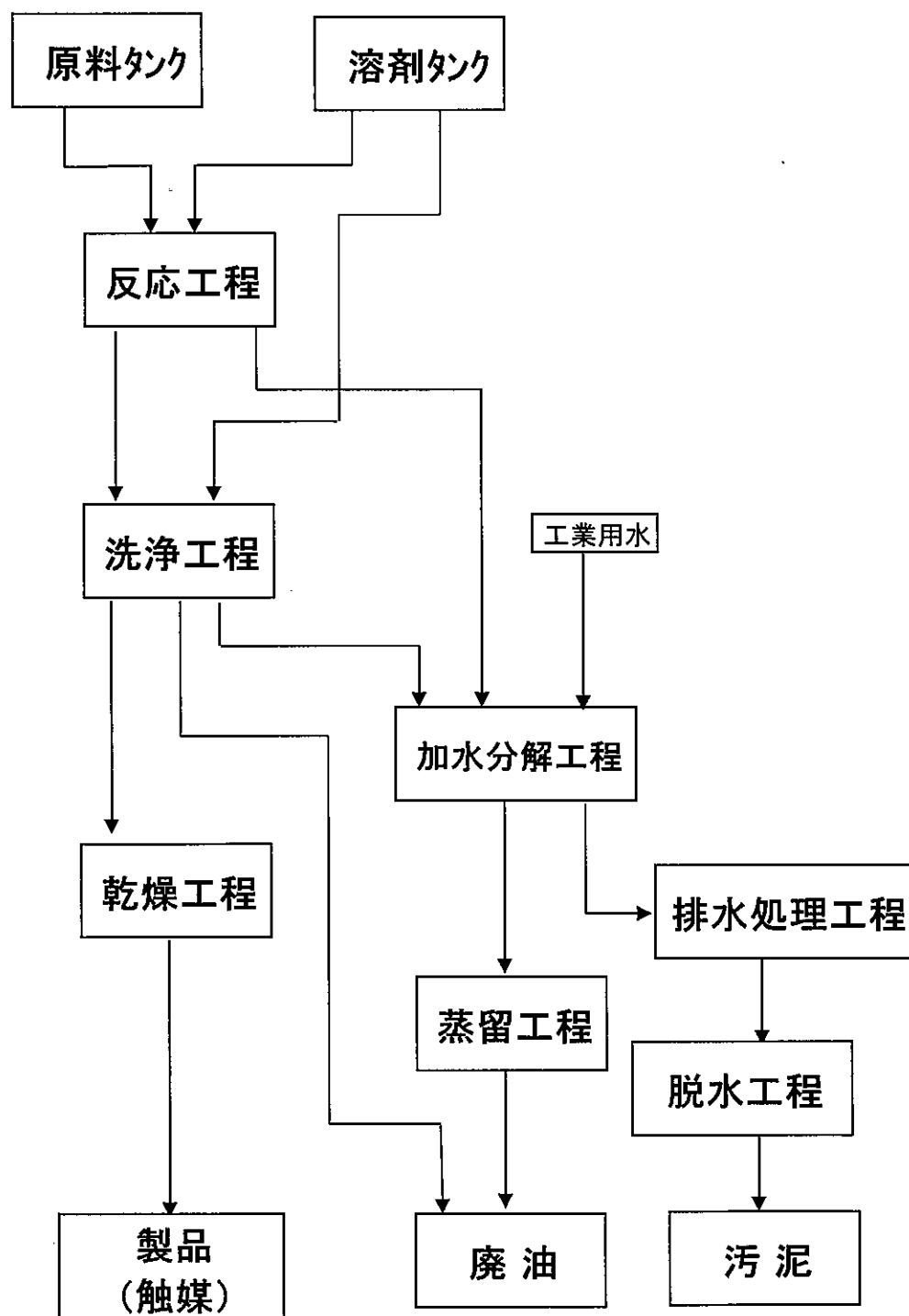
(5)環境に係わる社会活動への積極的な参加

(6)グリーン購入の推進

廃油・汚泥発生工程図

別紙 1

東邦チタニウム(株)黒部工場
尾崎 雅志



原材料と発生フローにおいて、特別管理産業廃棄物に該当する塩素系溶剤及び重金属は含まれておりません。